

1. 意見

別紙に記す。

この地方の歴史的を振り返ると、明治 32 年屯田兵が剣淵川を丸木舟で下り士別に入植し、翌明治 33 年より全国各地からたくさん入植者が開墾に勤しみ次第に増えていくが、度重なる水害、冷害、干ばつにより、入植するも離散する人達も多くを数えた。

とありますが、この地方は天塩川を本川とし数多くの支川に囲まれ、また天塩岳を中心に豊富な木材が育つ豊かな山地もあり、多くの人々の暮らしを育てて来ました。

農業では馬鈴薯の作付けで大正時代に澱粉大国を築き、昭和 35 年に一市町村で全国最高の米の出荷数「30 万俵」を達成し、さらに昭和 43 年には「61 万 6 千俵」の収穫を達成し単独市で「全国一」となり、大きく発展して来ました。

しかしながら一方、昭和 21 年の大水害により、死者 1 名、建物流失 28 戸、倒壊 51 棟、負傷者 5 名からなる大惨事が、更には昭和 28 年から 3 年間連続して水害に見舞われ、追い討ちかけるように冷害にも見舞われ大きなダメージを受けました。

残念ながら馬、牛、羊、鶏、等々の家畜の被害の記録は、根気がなく探す事が出来ませんが、推測にた易い事と思います。

更に、記憶に新しい所では昭和 50 年、56 年と収穫を目前に無残にも土砂と泥水で田んぼが畑が壊滅的な被害を受けましたが、昭和 46 年に完成した岩尾内ダムと天塩川本流の河川整備事業のお陰で、人命の危険を感じずる事はありませんでした。

しかし、依然として中小河川の災害は毎年のように起きています、この現実を真摯に受け止め、さらに安全で豊かな暮らしが出来ますように、関係各位にお願いするのみです。

私たちの上流域にあっては、昭和 46 年完成の岩尾内ダムのお陰により農業の利水、取水もさらには発電も容易になり、和寒、剣淵、そして士別と広大な面積の「農地」を、「暮らし」を支えてくれています、ひとえに天塩川の水のお陰です。水と云うには怪々しく『恵水』そのものです。

そしてこれからもこの天塩川の恵みで生産を上げ、人々が集い、暮らしていかなければなりません。

私たち上流にあっては保証された治水、利水対策に感謝すると共に、川本来の持っている『瀬』、『淵』、を大切にそこにすむ魚、鳥、など多くの生き物と、共に豊かな川づくりに一住民として関わっていきたいと考えますが、これとて天塩川の整備計画の決定と実施なくしては叶いません。

如何か一日も早い天塩川河川整備計画の決定と実施を願って止みません。

勝手ながら川の持つ顔も上流、中流、下流、とそれぞれに違い、またその周辺の環境も住民の生活条件、経済条件、など色々と違うと認識しています。

これからは、中流、下流、それぞれにお住まいになる方々と意見の交換がフランクに出来、天塩川流域に住む人々の暮らしが、まさしく天塩川という川一本で結ばれ、仲良く暮らしていけます様に願ってやみません。

氏名、大江敏文、XXXXXXXXXX 士別市 XXXXXXXXXX